

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成22年5月13日(2010.5.13)

【公開番号】特開2008-38142(P2008-38142A)

【公開日】平成20年2月21日(2008.2.21)

【年通号数】公開・登録公報2008-007

【出願番号】特願2007-172188(P2007-172188)

【国際特許分類】

C 0 8 L 67/04 (2006.01)

C 0 8 L 23/00 (2006.01)

C 0 8 L 23/08 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 67/04

C 0 8 L 23/00

C 0 8 L 23/08

【手続補正書】

【提出日】平成22年3月31日(2010.3.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(A) と (B) の合計量を 100 重量部として、(A) ポリ乳酸系樹脂 1 ~ 60 重量部、  
(B) ポリオレフィン系樹脂 99 ~ 40 重量部および (C) 相溶化剤 1 ~ 50 重量部を配合してなる樹脂組成物。

【請求項 2】

(C) 相溶化剤が、下記から選ばれる少なくとも 1 種である請求項 1 に記載の樹脂組成物。

(C - 4) 酸無水物基、カルボキシ基、アミノ基、イミノ基、アルコキシシリル基、シラノール基、シリルエーテル基、ヒドロキシ基およびエポキシ基から選択される少なくとも 1 種の官能基を含有するアクリル系樹脂またはスチレン系樹脂

(C - 3) 酸無水物基、カルボキシ基、アミノ基、イミノ基、アルコキシシリル基、シラノール基、シリルエーテル基、ヒドロキシ基およびエポキシ基から選択される少なくとも 1 種の官能基を含有するポリオレフィン系樹脂

(C - 1) エチレン/酢酸ビニル共重合体

(C - 2) エチレン/(メタ)アクリル酸エステル共重合体

(C - 5) アイオノマー樹脂

【請求項 3】

(C - 1) エチレン/酢酸ビニル共重合体が、下記の条件を一つ以上満たすものである請求項 2 に記載の樹脂組成物。

(c - 1 - 1) 酢酸ビニル含有量が、25 重量%以上、かつ 55 重量%未満

(c - 1 - 2) 190 、 21 . 2 N 荷重条件でのメルトフローレートが、30 g / 10 分以下

【請求項 4】

(C - 2) エチレン/(メタ)アクリル酸エステル共重合体が、下記の条件を一つ以上満たすものである請求項 2 に記載の樹脂組成物。

(c - 2 - 1) (メタ) アクリル酸エステル含有量が、26重量%以上

(c - 2 - 2) 190、21.2 N 荷重条件でのメルトフローレートが、8 g / 10 分以上

【請求項 5】

(C - 3) 酸無水物基、カルボキシ基、アミノ基、イミノ基、アルコキシシリル基、シラノール基、シリルエーテル基、ヒドロキシ基およびエポキシ基から選択される少なくとも1種の官能基を含有するポリオレフィン系樹脂が、下記の条件を一つ以上満たすものである請求項 2 に記載の樹脂組成物。

(c - 3 - 1) 酢酸ビニル含有量、または、(メタ) アクリル酸エステル含有量が、3 ~ 45 重量%

(c - 3 - 2) 190、21.2 N 荷重条件でのメルトフローレートが、1 g / 10 分以上

【請求項 6】

(C) 相溶化剤が、(C - 1) エチレン/酢酸ビニル共重合体の1種以上および(C - 3) 酸無水物基、カルボキシ基、アミノ基、イミノ基、アルコキシシリル基、シラノール基、シリルエーテル基、ヒドロキシ基およびエポキシ基から選択される少なくとも1種の官能基を含有するポリオレフィン系樹脂の1種以上を併用配合するものである請求項 2、3、5 のいずれか1項に記載の樹脂組成物。

【請求項 7】

(C) 相溶化剤が、(C - 4) 酸無水物基、カルボキシ基、アミノ基、イミノ基、アルコキシシリル基、シラノール基、シリルエーテル基、ヒドロキシ基およびエポキシ基から選択される少なくとも1種の官能基を含有するアクリル系樹脂またはスチレン系樹脂であり、さらに耐衝撃性改良剤を併用配合するものである請求項 2 に記載の樹脂組成物。

【請求項 8】

さらに充填剤を配合してなる請求項 2 ~ 7 のいずれか1項に記載の樹脂組成物。

【請求項 9】

さらに可塑剤を配合してなる請求項 2 ~ 8 のいずれか1項に記載の樹脂組成物。

【請求項 10】

アイゾット衝撃強度が55 J / m 以上、荷重 0.46 MPa における荷重たわみ温度が85 以上である請求項 1 ~ 9 のいずれか1項に記載の樹脂組成物。

【請求項 11】

請求項 1 ~ 10 のいずれかに記載の樹脂組成物からなる成形品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

すなわち本発明は、

(1) (A) と (B) の合計量を100重量部として、(A) ポリ乳酸系樹脂1 ~ 60重量部、(B) ポリオレフィン系樹脂99 ~ 40重量部および(C) 相溶化剤1 ~ 50重量部を配合してなる樹脂組成物、

(2) (C) 相溶化剤が、下記から選ばれる少なくとも1種である(1)に記載の樹脂組成物、

(C - 4) 酸無水物基、カルボキシ基、アミノ基、イミノ基、アルコキシシリル基、シラノール基、シリルエーテル基、ヒドロキシ基およびエポキシ基から選択される少なくとも1種の官能基を含有するアクリル系樹脂またはスチレン系樹脂

(C - 3) 酸無水物基、カルボキシ基、アミノ基、イミノ基、アルコキシシリル基、シラノール基、シリルエーテル基、ヒドロキシ基およびエポキシ基から選択される少なくとも1種の官能基を含有するポリオレフィン系樹脂

(C - 1) エチレン/酢酸ビニル共重合体

(C - 2) エチレン/(メタ)アクリル酸エステル共重合体

(C - 5) アイオノマー樹脂

(3) (C - 1) エチレン/酢酸ビニル共重合体が、下記の条件を一つ以上満たすものである(2)に記載の樹脂組成物、

(c - 1 - 1) 酢酸ビニル含有量が、25重量%以上、かつ55重量%未満

(c - 1 - 2) 190、21.2 N 荷重条件でのメルトフローレートが、30 g / 10 分以下

(4) (C - 2) エチレン/(メタ)アクリル酸エステル共重合体が、下記の条件を一つ以上満たすものである(2)に記載の樹脂組成物、

(c - 2 - 1) (メタ)アクリル酸エステル含有量が、26重量%以上

(c - 2 - 2) 190、21.2 N 荷重条件でのメルトフローレートが、8 g / 10 分以上

(5) (C - 3) 酸無水物基、カルボキシ基、アミノ基、イミノ基、アルコキシシリル基、シラノール基、シリルエーテル基、ヒドロキシ基およびエポキシ基から選択される少なくとも1種の官能基を含有するポリオレフィン系樹脂が、下記の条件を一つ以上満たすものである(2)に記載の樹脂組成物、

(c - 3 - 1) 酢酸ビニル含有量、または、(メタ)アクリル酸エステル含有量が、3 ~ 45重量%

(c - 3 - 2) 190、21.2 N 荷重条件でのメルトフローレートが、1 g / 10 分以上

(6) (C) 相溶化剤が、(C - 1) エチレン/酢酸ビニル共重合体の1種以上および(C - 3) 酸無水物基、カルボキシ基、アミノ基、イミノ基、アルコキシシリル基、シラノール基、シリルエーテル基、ヒドロキシ基およびエポキシ基から選択される少なくとも1種の官能基を含有するポリオレフィン系樹脂の1種以上を併用配合するものである(2)、(3)、(5)のいずれか1項に記載の樹脂組成物、

(7) (C) 相溶化剤が、(C - 4) 酸無水物基、カルボキシ基、アミノ基、イミノ基、アルコキシシリル基、シラノール基、シリルエーテル基、ヒドロキシ基およびエポキシ基から選択される少なくとも1種の官能基を含有するアクリル系樹脂またはスチレン系樹脂であり、さらに耐衝撃性改良剤を併用配合してなる(2)に記載の樹脂組成物、

(8) さらに充填剤を配合してなる(2) ~ (7)のいずれか1項に記載の樹脂組成物、

(9) さらに可塑剤を配合してなる(2) ~ (8)のいずれか1項に記載の樹脂組成物、

(10) アイゾット衝撃強度が55 J / m以上、荷重0.46 MPaにおける荷重たわみ温度が85 以上である(1) ~ (9)のいずれか1項に記載の樹脂組成物、

(11) (1) ~ (10)のいずれかに記載の樹脂組成物からなる成形品、である。